

第13回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第13回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和3年1月20日(水) 開会 午後1時5分 閉会 午後3時10分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、 戸田教育委員、副田教育委員 事務局：青木教育部次長兼教育総務課長、 立石教育総務課長補佐兼総務係長 説明員：中島学校教育課長、 古賀学校教育課参事兼課長補佐兼教育指導係長兼指導主事、 日吉学校教育課参事兼指導主事、 長野学校教育課インクルーシブ教育推進係長、 辻教育総務課教育支援係長、 城島教育総務課教育支援係主査
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆GIGAスクールについて ◆英語教育について
発 言 者	内 容
青木教育部次長兼 教育総務課長	それでは改めまして、こんにちは。定刻前ではございますけれどもお揃いでございますので、ただいまより第13回鳥栖市総合教育会議を始めさせていただきます。本日ご議論いただく協議事項は、「GIGAスクールについて」及び「英語教育について」の2点でございます。進行に当たりましては、橋本市長にお願いすることになりますので、橋本市長よろしくお願いたします。
橋本市長	皆さん、こんにちは。本日は、13回目の総合教育会議ということで、ご出席をいただきましてありがとうございます。また委員の皆様は、午前中の教育委員会に引き続きのご参加ということでお疲れ様でございます。 今日は、事務局としては「学校給食費の公会計化」をぜひ議題にということでございましたが、それはそれとして検討するというところで、今教育の大きな節目になっているのではないかと思います。「GIGAスクールについて」及び「英語教育について」ということでご意見をいただきたく内容を設定しております。 最初に、それぞれについて事務的な作業等を含めて、現在どこまで進んでいるかということをご説明申し上げ、それぞれの立場での

	ご意見を賜ればと思いますので、よろしく願いいたします。まずGIGAスクールについて、説明をお願いいたします。
日吉学校教育課参事 城島教育総務課主査	(資料に基づき説明)
橋本市長	はい、ありがとうございました。今までの取組みを駆け足でご説明申し上げましたが、これまでのところでご質問やご意見とかございましたら頂きたいと思います。 大体教育委員の皆様には、事前にご説明されているんですよね。私が一番知らないんですよね。ちょっと幾つか質問よろしいでしょうか。まず家庭用モバイルルーターが必要なお宅は何件ぐらいあるんでしょうか。あるいはどのくらいの台数を準備されてるんでしょうか。
城島教育総務課主査	はい。モバイルルーターにつきましては、小学校6年生と中学校3年生の全ての保護者に学校を通じて申請書を配付し、市教育委員会に申請していただいた家庭への貸出しを行っております。申請者数は、小中学校合わせて201名となっております。その申請者のうち、実際に借りに来られた方が101名で、市教育委員会では150台のモバイルルーターを準備しておりましたので、市教育委員会で準備した範囲内での対応ができております。ただ今回の申請につきましては、あくまで通信テスト用ということで、実際にモバイルルーターを使っただく日数が1日若しくは1日から3日間ということだったので、保護者の中には「今回はテストで数日しか使わないのであれば、自分の携帯やモバイルルーターで対応出来る」という方もいらっしゃるようで、これが長期間に渡るとなると、実際の貸出数は増えてくるのではないかと考えております。小学校3年生と中学校3年生全児童生徒に占める割合としては、申請者数が約15%、実際の貸出者数が約12%となっております。以上です。
橋本市長	これが全学年に広がるんですが、それに対してはどういうふうに考えているんでしょうか。
城島教育総務課主査	はい。今後、全学年で1人1台端末になった場合の補助等に関しましてですけれども、国から通知等があった中では、低所得者の方に対する通信費の補助での対応というところが示されておりますので、本市におきましても、通信費の補助での対応ということで必要な家庭には補助してまいりたいと考えております。
橋本市長	だから何台ぐらい整備する予定なんでしょうか。整備予定の時期まで含めて教えてください。
辻教育総務課教育	教育総務課の辻と言います。新年度以降はモバイルルーターを貸

<p>支援係長</p>	<p>出しするのではなくて、皆さんにモバイルルーターを用意していただいて、低所得者などに対しては就学援助や特別支援教育就学奨励費でその費用の助成を行いたいと考えております。</p> <p>それは、今回モバイルルーターの貸出しをさせていただいたんですけれども、全国で緊急事態宣言が出て全国一斉に小中学校が休校になった場合、本市でも来週の月曜日から一斉に休校になりますっていうときに、大体の見込みで全体の10%としても本市では700台ぐらいのモバイルルーターを用意しなければならないのですが、ほかの自治体も用意しないといけないっていうときに、業者から本市が優先的にこのモバイルルーターの借入れができるのだろうか、実際にはちょっと無理じゃないかという話にもなりまして、それだったらそういう事態も想定されるので、事前に早めにご家庭に環境を整えることをお願いする方法がよいのではないかと検討しております。モバイルルーターを何百個確保するよりは、確保していただいた分の助成を行う方法をとりたいと考えております。就学援助を受けていらっしゃる方の大体3割から7割ぐらいの方に対する件数の予算を確保したいと考えております。特別支援教育就学奨励費の助成金につきましても、就学援助と同じぐらいの所得層の方に対する助成になっており、詳細に区分が決まっているので同様の設定で国のほうから基準が示されているもので対応したいと考えております。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。ただ使うか使わないか分からないものに、各ご家庭で事前に準備をするのでしょうか。その通信費補助にしても、使った分だけ補助しますぐらいの話でしかないので、ということは結局自腹でやってくださいっていうことになるんですよ。なかなか難しいことではないかなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>辻教育総務課教育支援係長</p>	<p>はい。なかなか難しいところ、悩ましいところでもあるんですけれども、今ご家庭にインターネット環境がある方とない方という区分をした場合、ある方っていうのは自分が利用するためっていうのが一番の理由だと思うんですけれども、既に自腹で設定されている方と今までインターネット環境を全く設定されていなかった方とで公平性が保たれないというか、持っていないっていうだけで市から提供されるのはどうかという意見もなかったわけではないんですよ。それなので、そういう基準で話をすると自分で出来ることは備えとしてやっていただきたい。そのために用意が困難な方については、こちらで支援させていただくという方法をとらせていただけないかなと検討しております。</p>

橋本市長	<p>はい。そうなると、遠隔時がなかなか厳しいということですよ。一斉休校した場合ということで、もう一つよろしいでしょうか。ここばかりについてもしょうがないんですが、プロジェクトチームを立ち上げていただいてA・B・C・Dの4チームで検討されたということなんですが、それぞれのプロジェクトチームの中で出された意見を聞かせていただいてよろしいでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事	<p>今上がってきた話に関連することについて、2ページ目をご覧ください。ここまでは、臨時休業時の対応を中心に進めてきておりますので、Bチームの会議回数が一番多いです。そしてCチームが実際に会議をした回数は、まだ1回です。そこで上がってきた内容を申しますと、例えばBチームの情報教育推進リーダーの先生方からは「伝達講習するときにマニュアルが欲しい」「先生方に話を下すときにこういうマニュアルが欲しい、こんなことを業者にして欲しい」というような意見がありました。あと臨時休業時には、例えば「健康観察をする、課題の配付をするなど行ってはどうか」など、そういったアイデアも出してもらっているところです。それですので、1日の流れなども、このプロジェクトチームの先生方に考えていただいたものを基に作っております。関連して、学校でいう朝の会から帰りの会までのシナリオを作っていたりもしております。</p> <p>それと、実際に通信テストなどを始めたときに、こちらが準備した配付資料がございましたが、これを基に実施してくださいということで出したものの中で、例えば、私は中学校籍ですので、中学校の先生の感覚で大丈夫だろうと思ったものが、小学校の先生から見たら、もう少し丁寧な説明があったほうが良いというようなことで、先生方に配布資料をリメイクしてもらい、それを市教育委員会に送っていただいて、さらに市内で共有したりしております。また保護者への説明の文書についても先生方からアイデアを出していただいたりしたところでございます。</p> <p>それから、Cチームの平常時の授業活用については、当初オンラインで授業をするのに授業の撮影をしようかとかいうようなことで、ゼロから話をスタートしたときに、色々な意見が出ていたのですが、このCチームの先生方が「既存の質の高い動画コンテンツはたくさん配信されてますよ」とおっしゃったこととか、それから「QRコードを使えば、簡単に解説の動画にアクセス出来ますよ」という意見などが上がってまいりまして、また「QRコードを課題として配布するプリントなどに付けてみようか」というようなことも現場感覚で出してもらいまして、必ずしも動画を自分たちで作るって</p>

	<p>いうことをしなくても、あるものを色々使っていいんじゃないだろうかという意見がございました。そういったものを反映させながら、進めてきたということになります。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。結局、遠隔教育というところで一斉休校になった場合に、W i - F i 環境なりがあるご家庭はよしとして、フォロー出来ない皆さんにはどうしようかという議論になったんでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事	<p>こちらについても、今回の通信テストについては、対象が小学6年生と中学3年生であったということ、また校内テストをやってみて家庭でも同じようにやったこと、それからモバイルルーターについても同じものを貸出ししているということもあって、接続の状況についてはあの数字が出ているかなと思います。</p> <p>実は先行事例ということで、上峰町の取組みを見せていただいたのですが、上峰町は家庭にあるものを使ってということでしたので、我々が訪問をさせていただいた時も、うまく繋がらないご家庭もあったようでした。それから、保護者から学校に電話での問い合わせがあったというような状況でもありました。</p> <p>中学1年生でもそのような状況であるということになった場合に、果たして小学校の学年のどこまでが自分1人でオンライン通信に対応出来るだろうかと考えたときに、やはり学年でそこは境目があるんじゃないかというふうに考えているところです。</p> <p>子どもだけで対応が出来ない場合は、保護者が付いてもらわないといけないのですが、分散登校のときの状況を見ましても、低学年は学校が開放されているときにも登校している子どもたちが多かったというふうにも聞いておりますので、保護者も昼間お仕事に行かれたりしてる場合にどうするかとなったときに、必ずしも家庭での通信ではないことも模索していく必要があるのではないかと考えております。そこは発達段階によって対応を変えていく必要があると思っておりますので、そちらについても、この3学期に意見を集約して、ある程度こちらで想定したところで試しながらやっていくということになっていくのかなと思っております。だから、全学年が一斉に同じ状況でやれる状態ではないだろうと思っております。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。たまたま新型コロナウイルス感染拡大という状況があり一斉休校がなされたということで、どうもそっちに目がいってしまいがちなんですが、恐らくG I G Aスクールの元々のところは、普段使いでどう活用するかということが主体なんだろうと思います。鳥栖市内7, 0 0 0人の児童生徒さんが、</p>

	<p>一斉にこれを使うとなると、回線負荷が高過ぎて動かないと想定したほうがいいんじゃないかなと思います。そういうことで、私としては、出来るだけ普段使いの中で、どう独自のGIGAスクールの使い方をしていくのかということを探索していくことが、一番効果的ではないかなと思っております。実際に実践していらっしゃる戸田先生いかがですか。</p>
戸田教育委員	<p>先ほどの説明の中にもありましたとおり、このタブレットなどを使うことで、より教育効果が上がるという部分で上手く活用するというのがメインだと思います。ちょっと質問させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>これから本格的に始まると思うんですけれども、このプロジェクトチームを中心により良い方法を色々と検討されたと思うんですが、この後先生方に下ろすときに、どの程度各先生の判断でこういうふうにしましょうという裁量が認められているのでしょうか。統一的なものなのか、その辺のイメージを教えていただけませんかでしょうか。</p>
日吉学校教育課参事	<p>こちらの要望は要望としてあるわけなんですけれども、苦手な先生が嫌にならない工夫が要るかなあと思ったときに、ある程度このこまでは出来るようにしていただく、例えば課題を配信して子どもたちがそれに取り組んで、それをまたバックする、そしてこちらで集計してっていうようなところまで出来るようになって欲しいと思っています。</p> <p>電子黒板が入ったときの難しさとまた質が違うのが、電子黒板は授業者のスキルが上がれば、ある程度使いこなせるようになるものなのですが、今回は学習者用の端末になりますので、子どもたちの使い方を指導できるスキルが必要になると、さらにレベルが上がるかなと思っております。まず自分が使えるようになって、電子黒板だったらもうそれでよかったんですけれども、そこからさらに指導が出来るようになるってなると、今でも心配している先生がたくさんいらっしゃると思います。その辺のところは、例えば今申し上げたようなレベルまで、まずは達成出来るように頑張りたいっていうのをマニュアル化して進めていきたいと考えています。</p> <p>そちらについても、やはり現場の声を無視して進めるわけにはいかないかなと思っております。今でも出来る先生方はそれこそ平常時の活用についてどんどん使ってもらっていますので、そういうモデルを示しながら、でも最低ラインここまで頑張ろうというのは、やはり嫌にならない程度のぎりぎりのところで、先生方の声を聞きながら設定していきたいと思っております。</p>

戸田教育委員	<p>はい、ありがとうございます。同じような状況に大学が置かれた経験からすれば、ぜひちゃんとフォローしてあげていただきたいのと、あと先生方も多分慣れることが大事だと思うので、ぜひサポートしながら使う機会を増やしていただければ、多分先生方はある程度のところまでは使われていると思うんですね。大変だと思いますけれども、よろしくお願いします。すみません。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。私の経験からすると、この世界っていうのは多分子どもたちは軽々と乗り越えていくんですね。恐らく先生方のほうがハードルは高いはずでして、デジタルネイティブの子どもさんはあっけなく使いこなすと思います。ですから、先生がそこでプライドを傷つけられたとったりすると、先生と児童生徒の関係が大変歪になってしまいますので、そこはそういう世界なんだということで、先生も素直に児童生徒から教わるということは考えていかないと、新しい技術が出てくると絶対若い子のほうが習熟度は高いわけですから、そこはそういうふうにご考慮いただく必要が一つあると思っています。これは絶対私が教えなきゃいけないんだと思うと、そこはちょっと違うんじゃないですかというのがこの世界です。</p> <p>あともう一つ考えなければならないのは、こういう新しいものを普及させていくためには、レベルが1・2・3段階ぐらいあるのかもしれないんですけど、必ずそこを使って出さなければいけないものを求めていく。必ずこれを使って出さないとアウトプットが出ませんよと、端末を使うなりソフトを使うなりしないと出て来ないものを、あえて例えば教育長から先生方に宿題を出して、それでレポートを求める。そうすると使わざるを得ませんから、先生方は頭が良いですから、もっとちゃんと勉強しますよ。だから、それで大体皆さんがレベル1を出来るようになったなと思ったらレベル2のものを求めて、そこを通過しないと物事が進んでいかないという状況に追い込むって言うと言い方が強過ぎるんですけど、そういうハードルを少しずつやっていって皆で習熟していく。そのうち世代も変わりますから、そういうことで皆がそれに習熟されたことになっていくという、そういうことを考えていく必要があるような気がしております。</p> <p>ぜひ教育委員会としても、まずレベル1で全ての先生方にここまでは超えていただこうと何か目標設定をしていただいて、ここはみんなクリアしていきましょうねっていう何か申合せみたいなことが出来れば、結構全体として習熟度が上がっていく感じはいたします。はい、どうぞ。</p>

古澤教育委員	<p>はい。市長が今おっしゃいました若い世代の子どもさん方は理解が早いということは、昨年武雄市視察に行った際にも、最後にそういったお話をお伺いしました。多分そうだろうと思います。ゲームにも慣れていて、ああいう操作はお手の物だし、理解すればそういうふうにしていくだろうと思います。</p> <p>ちょっと一つの懸念として言われているのが、先生については色々なフォローが出来るからいいとは思いますが、特に保護者の方を含めてITリテラシーの不足、これは多分問われてくるだろうと思います。家庭によって高い意識を持っている方と、そんなのにとっても疎くってという方との格差が出てくると思います。例えば、家庭で勉強してるときに、お父さん、お母さんに「これどういうことかな」という質問するような、昔ながらの親子のやりとりが無くなって、完璧に一方通行だけに終わってしまって「親に聞いても分からんもん」ということにならないように、学校教育課や校長先生方に保護者の面倒まで見てくださいますと言うつもりはないんですけど、そこら辺の情報の共有の仕方については、かなり家庭によって格差があるだろうと思います。そこでの子どもさん方が来るわけですから、そこら辺を頭に入れておかないと難しいのではないかと思います。先ほどは、環境整備という観点でモバイルルーターの設置を家庭に協力していただくというお話があっていたんですけど、そういった言葉一つをとっても、理解の有る無しが今後大きく出てくるのかなあというふうに思います。ただ市長がおっしゃったように、5年、10年経過すると世代も変わって、そういったことに優れた方が保護者になっていく時代が来ればいいですけど、そういったのもネックになるかなというふうに思います。これは老婆心ながらの意見でございます。</p>
橋本市長	<p>今古澤さんからご指摘いただいたように、大変危惧するのは、ここで2極分化がよりはっきり出てくるんじゃないかなということにして、物凄く若い年齢でもう駄目だと思ってしまうようにしておかないと、どうやっても追いつかないみたいに思われてしまうと、非常に辛いところがあるなと思っております。あるレポートを読んでいたら「現在でも小中学校で教科書に書かれていることを理解出来ている子は、1クラスに2人か3人しかいませんよ」ということが書かれていました。大変ショックを受けていまして、また「大人になっても、今世の中に出回っているそのものを本当に理解してる人は全体の3分の1ぐらいしかいないだろう。ざっとこんなものだろうということで世の中動いてるんだ」とそういうご指摘がありました。だから、やっぱり教科書に書かれていることは、我々</p>

人類が何百年蓄積してきた知識が織り込まれてるわけですから、その本当の意味を理解するとなると大変なこととして、特にこういうものを使ってしまうと「今は分からないことは、ネットで調べたら何でも分かるぜ」と思ってしまい、表面だけをさっとなぞって分かったと思い込んで、本当の意味が突っ込めてない人たちが続出るんじゃないかということが大変危惧しています。そこら辺で、それぞれの持っている意味の深掘りとかですね、例えばこういうものを使ってどんどん探ってく、深い知識というかそういったものに持ち込むためにこういうものを使っていくという使い方の工夫をしないと、「1クラスに3人しか教科書に書かれていることを理解していない」と書かれていて、ちょっとショックだったんですが、そんなことでこういうツールをカバーするための道具として使っていく方法ということもご検討いただくと有難いと思います。

あともう一つ、これから出てくるであろうということで、これは我々も考えなきゃいけないんですけど、こういう端末はどんどん世代交代していきますので、その機器更新に誰がお金を出すかということがあります。今回だけでも、教育委員会のために予算があるみたいで、物凄いお金がかかっています。そこで、文部科学省の課長さんが佐賀県市長会にお越しになった際に、佐賀県は遅れているということを言われまして「将来この携帯端末は、皆さんが今学校に通うときに使っているランドセル、それに代わるものでございます」ということをおっしゃっていて、初っ端にその背中を押すのは国の役割ですけども、あとは自分で携帯端末を準備してくださいということを示唆しているのかなという感じもしております。

そうすると、そこは我々もその問題意識を持って、国とどう掛け合っていくのかとかをしなければいけないんですが、そこら辺を取り巻く経済的、費用的な問題っていうのが出てくる。多分、一つ出てくるのは、これはぜひ教育委員会で交通整理をお願いしたいのが、ソフトウェアの問題です。例えば、使い方が習熟していけばいくほど、私は何とかっていうソフトを使いたいというのがぼんぼん出てくるはずで、それを結構な人数で使うとなると、それだけのライセンスが要りますから、結構高いものになってきます。そこは鳥栖市の教育委員会として、まずはこれこれのソフトウェアの中で出来るものでやりましょうねとしていただく。新規のソフトウェア購入が必要なものについては、結構ご議論いただかないと「これはなんとか中学校だけでちょっとやってみようよ」とかいうことをどんどんやっていくと、先生たちも異動されますので「なんとか中学校では使ってたんでこの学校にも入れてもらわなきゃやっていけませ

	<p>ん」ということになる、ちょっと辛いことになるなあと思っております。だから、どういうソフトウェアを使ってやっていくんだというところも、頭に置いといていただく必要があるかなと思います。</p> <p>併せて、特に新規のソフトウェアの場合は、セキュリティーが非常に緩いものがありますので、特に児童生徒さんたちの成績を管理するものとしっかり切り分けるとか、データの持たせ方ということも、きちんと各先生方が守っていただかないと、便利だというだけでそっちに供用したりするとまた変な話になってきますので、そこら辺は終わりの宿題でもありますけれども、ぜひ教育委員会としても、ソフトウェアの在り方やセキュリティーの在り方については、きちんとルールを作って守っていただきたいと思っております。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>今言われたように、本当に多くの予算を使って相当な覚悟を持って、このGIGAスクール構想に向けて取り組んでいるんですが、今までタブレットゼロの状況から小学6年生と中学3年生の全部に導入をいたしまして、この半年ぐらいでばたばたとやってきましたけれども、それだけの予算を使っているということで成果も出さなくてはいけないし、ほかの市町との関係性もあるということも含めて、一生懸命頑張っていきたいというふうに思っています。今市長が言われましたように、非常に市長はご造詣が深いのでセキュリティー面などルールの面ではしっかりやっていきたいと思っております。</p> <p>日吉参事から説明したように、3学期は、平常時の1人1台のタブレット活用の仕方をいかに広げていくか、効果的な活用が出来るかという研究に入るということで、どこかの学校は出来たけど、どこかの学校は出来なかったとかいう学校の格差といいますか、もちろん学校の中での格差も出てくるんですけど、素晴らしい指導力を持った先生方がいればどんどん進んでいくんでしょうけれど、学校によってはそういう先生ばかりでもないで、校長先生も懸念しているようなところもあるように見受けましたので、そういうことがないように教育委員会としては、平準化された指導が出来るようにやっていきたいと思っております。</p> <p>先ほども言いましたように、やっぱりマニュアルやモデルを示していくべきだろうと思っております。電子黒板の活用の場合も、研修会を何回も開いて、広げていくのに6年ぐらいかかりましたけど、上手く使用するまでになったので、特に平常時の活用の仕方については、お年寄りの先生やまだ若い先生方もおられる中で、県も研修会をしっかり実施するというところで、来年度はかなり色々な対応をするということを申していますし、またICT推進支援員も活用出</p>

	<p>来るように予算化するという事になってますので、そういうことをしながら進めていきたいと思っています。</p> <p>あともう一つ、非常時に向けた取組みということで、さっきも言われたように、確かにあの時は、もうどこでもオンライン学習をされていてそれをやらないと駄目なような言い方をされていまして、非常にうちも大変だということでしたんですけども、今は学校全体が学校閉鎖になるというのは非常に少なくなってきておまして、感染者が多くても佐賀工業高校も学年閉鎖レベルということですが、やっぱり学級での閉鎖や休業はあるだろうと思いますので、そういうときのための準備が必要だと思っています。モバイルルーター貸出しの個数も含めた上で、いつでもそうなったときはすぐ対応出来るように、学年単位ですぐに配付出来るように、その辺のところはしっかり構えて、せっかくオンライン通信テストをして非常に良い結果が出ていたので、そういうことも踏まえながら、いつでも対応出来る準備体制だけはやっておかないとまずいんじゃないかなと思っています。もし、複数の学年で閉鎖があったときには、分散登校も踏まえながら、家庭のオンライン学習も入れるかとかそういうことをしながら色々な手だてをやっていく必要があるのかなと思っています。この1年間様々な課題が出ましたから、そこを踏まえて、平常時のやり方と非常時のやり方をもう一度検討していきたいと思っています。市長からも色々な素晴らしいご意見をいただきましたので整理したいと思っています。よろしくお願ひします。以上です。</p>
橋本市長	<p>ここまでで、何かご質問がございましたらお願いします。</p>
戸田教育委員	<p>よろしいですか。先ほど途中で市長が言われました「ちゃんと機能を制限しているか」という話は、かなり大きな問題を含んでるのかなと思っています。学校の情報端末なのでセキュリティーの問題は絶対あると思いますので、ありとあらゆることを制限していくのは簡単だと思います。しかしながら、あれしちゃ駄目、これじゃ駄目、これインストールしちゃ駄目となってしまうと、何か肝心なものを失う気がしています。その線引きは非常に難しいですけども、うまく越えていかなくてはいけないのかなと思います。僕のところを見ると、カメラを使っちゃいけない、ビジョンを使っちゃいけない、共有ドライブを使っちゃいけないなど、色々なところに制限をかけて使いにくくなっているという事例を聞いているので、上手くその辺を線引きしてあげなきゃいけないのかなと思います。</p>
古澤教育委員	<p>私も同じように思います。市長が先ほどおっしゃったように制限をかけるのが一般的だろうと思うんですけど、学校によってはアプ</p>

	<p>りをダウンロードして色々なサイトを活用することによって、通常の学校の授業の中では得られなかった情報を得ることが出来たという報告もあると聞いております。これは非常に危険もはらんでいるから、やるときには難しくなるかもしれないけれども、ほんの一部だけの活用だけではなくて、可能であれば一定ここまではという危なくない範囲で広げる必要があるんじゃないかなと思っています。</p>
橋本市長	<p>失敗も含め様々な経験をどれだけさせることが出来るかですね。ディスク満杯になるまでデータため込んだとかですね。やっぱり子どもたちの興味もどんどん突き進んでいきますので、そこを突き抜けて行かせてあげないと、こういうのは経験値として積み上がってこない、ということがありますので、そこまではぜひ先生方はどんと構えていただきたいと思います。</p> <p>将来的な期待としては、例えば中学校の中に「A Iクラブ」が出来るというのがあります。要するに、もう近い将来、事務系の仕事の半分はA Iが取って変わると言われていて、事務系の仕事をする人たちの半分は要らなくなる。それじゃ、どういう世界で飯を食うのかということでもありますので、その意味では自分たちでこの分野のA Iを作ってみようよとかですね。そういうのに進んでいくと、本当に面白かったらどんどん勉強出来ると思いますので、そういうきっかけになるといいなと楽しみでもあります。すみません、感想ばかりで。ありがとうございます。</p> <p>あと、G I G Aスクールについてはよろしいでしょうか。いずれにせよ、まだ道具が揃っただけで、これからでございますので、ぜひここは皆さんも関心を持って見ていただいて、本当に鳥栖ならではのI C T教育の取組みが出来ていければ大変有難いと思います。</p> <p>あと、もう既に今日先生からご紹介があったかと思いますが、去年のコロナ禍の中で、単元ごとのモデル授業を撮りためていただいたものがあります。例えば、分数が分からないとか集合が分からないとかもろもろあったときに、その分野で一番教え方が上手な先生がモデル授業をした映像を撮りためていただいていて、そこでQRコードのパスワードを渡して、例えば自分の携帯端末のスマートフォンで見ることが出来るような取組みをしていただいています。ユーチューブで見られるので、各分野の得意な先生の例えば5分とか10分とかに区切った単元ごとの映像資産を持つと「これが分からないときは、それを見れば皆よく分かるよ」ということです。ただ怖いのは、自分の担任の先生を飛び越えて、これでいいって言われるとちょっと辛いところがあるんですが、そこは、先生も切磋琢磨して、この分野でちゃんとやれるぞという得意技を身に付けて</p>

	<p>いただく努力をしていただく。だから、先行して勉強したい子はどんどんそこを見ていけば自分で学習が出来る、不得意なところはそこを見て自分でフォローが出来るということも取組みでやっていただいて、ぜひここは色々な先生方の抵抗はあるかもしれませんが、やっていただくと面白いかなあと考えています。何かそれは違うということであればお願いします。</p>
日吉学校教育課参事	<p>色々組合せをしながら、やっていきたいと思っております。確かに鳥栖市の財産としてそういったものを進めていく、あるものを使っていくということ、その辺りのところもバランスを見ながら進めていきたいと考えております。</p>
橋本市長	<p>はい。今後とも継続的にフォローが出来ていければと思いますので、よろしく願いいたします。ちょっと時間も押していますので、次の英語教育についてお願いします。</p>
古賀学校教育課参事 日吉学校教育課参事	<p>(資料に基づき説明)</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。英語教育における、鳥栖市の状況をご説明申し上げましたけれども、この学習状況調査のこういう結果が出た要因というか、ここら辺が今後課題であるとかいうことをどういうふうに捉えられているのでしょうか。</p>
古賀学校教育課参事	<p>全国調査それから県調査がそれぞれございます。全国調査につきましては、色々な要因があるかと思っております。これまでも12月の県調査では、英語につきましても中学校において実施されておりました。全国と比べることは出来なかったんですけども、県のほうでは、到達基準のどこまでいっておけば、指導としておおよそ達成していますというような基準があったんですけども、県の調査におきましての課題点というのでも幾らかございまして、使える英単語の数が制限された中で実施しているというところがございまして、そういったところを踏まえますと、県の調査よりも全国調査のほうが、英単語の数が幅広い中で実施されているというところに慣れていない状況もあったのかなと推察されるんですが、そういったことは日吉のほうが多分詳しいかと思っております。これまで、教育センターで分析等については携わってきておりましたので、そういった点については詳しいかと考えております。</p>
橋本市長	<p>日吉先生、お願いします。</p>
日吉学校教育課参事	<p>まず、それぞれの技能については、それぞれの技能を鍛えるしかありません。だから、授業の中で、そこを狙って活動に組み込んでいるかどうかということが重要になってまいります。しかしながら、技能はお互いに非常に関連がございまして、例えば「聞くこと」</p>

	<p>と「話すこと」は、大きな関連があります。聞き取れない子は、話すことが出来ません。それから「話すこと」と「書くこと」も、これまた大きな関連があります。書くことが出来る子は、話すことが出来ます。要するに、お互いに技能は関連しておりますので、これらの技能を統合した活動を組み込んでいくということも重要視されているところです。今の鳥栖市内の授業については、先ほど古賀の説明にもございましたように、学校訪問等が出来ておりませんので、実際の授業を見ての分析が出来ていないところでございますが、授業を見れば、もう少しこういう活動を取り入れたほうがいいのではないのだろうかということを話すことが出来るかなと思うところでございます。一般的には今申し上げたように、それぞれの技能は、単元の最後あるいは学期の最後に大きなゴールを設定して、統合的に使う活動に取り組みさせること、ちょっと負荷がかかるようなことをさせることで、少しずつ伸びていくということになります。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございました。それぞれ説明申し上げましたけれども、ご質問やご意見がございましたら承ります。はい、どうぞ。</p>
天野教育長	<p>すみません。この英語学習については、教育プランの中で具体的に重点項目として挙げてこなかったんですよね。強いて言えば、今年度は小中一貫教育の英語部会をやりましょうということぐらいで、あとはALT 5人をお願いをするということやってきてたので、はっきり言って、ほかの分野でまだ色々やる事が多くて、優先順番からいうとちょっと英語は置いていたところもあって、非常にそこは反省しています。昨年度の学習状況調査の結果を踏まえると、佐賀県が全国47都道府県中46位だったということで、そういうレベルであったということがあります。今見たように県の調査では、特に中学2年生は全般的に落ちているんですよね。それはどこの中学校の先生方も生徒指導面で苦労してあるということですが、そういう意味よりももっと低いということですので、そこはかなり来年度に向けて立て直していかなくてはいけない部分じゃないかなと思い非常に反省もしております。</p> <p>僕も色々学校訪問等で授業を見て感じるのは、やっぱり英語の授業は教え込み型でなかなか楽しくないんですよね。小学校6年生ぐらいは、とっても楽しいって言うてるんです。しかし、中学生になるとがたっと楽しさが落ちるんですよね。そこで、中学3年生と小学6年生の違いは何かあという、やっぱり英語の授業が楽しくないんですよ。それは誰が作っていくかという英語の指導をする教員だろうなと思うと、もうそこで終わってしまうんですが。だから、今日の午前中も、日吉参事としっかりそこはやっていき</p>

	<p>いということも含めて話をしたんですけれども、やっぱり若い先生方とちょっと年齢を上に行かれた先生方では指導力に差がある。例えば、今度の学習指導要領の改訂では、発語は全部英語でしようというのが目標ですけれども、そういうふうに学級で楽しくやってるのはごく一部で、あとは本当に教え込み型の授業であったりしますので、先生方の指導力の差が如実に出ているのかなと思います。</p> <p>これは、佐賀県全体に言えることなので、この前、県においても英語教育に関することに取り組めますということでご報告なさっていたので、かなり反省してやられるんだろうと思います。</p> <p>実は資料を読んでおりましたら、英語で授業されているのは全国的には76.9%ということですが、佐賀県の場合は66.6%という結果でしたので、既にそこに差があるんですね。また、各学校の英語の教員は講師が多いんですね。もちろん講師でも素晴らしい先生もおられるんですけれども、その段階のレベルから佐賀県が劣っているというようなことで、英語力を持った先生方それから英語センター長も大いに外国に行って学んで来てもらうということもやっているんですけれども、そういうところも含めて、ちょっといいタイミングで市長のほうからこういう課題をいただいたので、今後はしっかりと取り組んでいこうと思っている状況です。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>大した意見じゃないので、ちょっと申し上げるのは恥ずかしいんですが、私が今から言うのは、教育委員としての意見ではなくて、外国語の現役の学習者としての意見です。</p> <p>私の場合は、暇つぶしとぼけ防止が主たる目的で、個人で英語とハンゲル語を8年間ほぼ毎日2、3時間以上学習しているかなと思っていますが、その割には進歩しません。韓国人とか外国の方にも色々な知り合いがいるので、実際に話す機会もあります。英語にしても外国に行く機会が多かったりしたもんですから、せっかくならば正しく話したい、間違った言葉を平気で使うと相手の神経を逆なでしたりすることもあるので、正しく使いたいということがベースにあって、今でも続けています。長続きする根本のベースにあるのは、恐らく好きだからだろうと思います。上手に話せなくてもちゃんと理解して話したいという思いがあって、昔から言うように「好きこそ物の上手なれ」ということで、続けているのはそれがあんだろうと思います。</p> <p>学校の教科になったからには、先生方は一生懸命教えられると思いますけど、子どもたちにも好きになってもらいたい。まずは、英語を好きになってもらいたいと思います。低学年から導入することになって、最初から嫌だとならないようにしていただきたい。そう</p>

	<p>なってしまうと、中学校に行ってもその上に行っても毛嫌いしてしまう傾向があると思いますので、食わず嫌いにならないように、最初はしっかりとすることが大事だろうと思っています。これ面白いなという方向に、子どもさん方に仕向けていただけたらいいだろうと思っています。それが1点です。</p> <p>もう1点が、どうしてこういう間違いを堂々と使うだろうかという世の中に氾濫している和製英語を、使わないような努力をしていくべきだろうと思います。本当の正しい外国語で、外国で話しても通じるような言葉を使わないといけない。それだけでも語彙力が増えるわけです。もう身近なところでいっぱいあるんですよ。だからそういったことも、これは社会全体で特に報道関係が中心となってやっていかないといけないだろうと思っています。以上、これは私の私見です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。言葉の世界で生きていらっしゃった副田先生いかがでしょうか。</p>
副田教育委員	<p>ボールというより、ドッチボールのような気がしております。私は日本語専門でございますので、本当に英会話は苦手です。今の古澤委員の話、それから教育長のお話を伺っていて、脳内学者の茂木さんの話を思い浮かべました。茂木さんは天才だと言われていますが、その茂木さんがおっしゃっているのが「僕は天才なんじゃないくて、何かを学ぶときにどういうふうにしたら楽しいだろうか、算数って必ず同じ答えが出るからクイズみたいで楽しいなって思ったりして、楽しいと思えるような方向性を見つけることが第一歩なんだ。楽しいと思ってしまうと脳が閉ざされていく。だけれども、嫌だなあと思ってしまうと脳が閉ざされてしまつて、本当に脳に溜まらない」と多分本にそういうことが書いてありまして、そのことを思い浮かべながら、ああなるほど、現場ではどのようにすればいいのかと想像を巡らしておりました。そのパスにタブレットが入ってきて、この間武雄市で視察させていただきました山内小学校の子どもたちの楽しそうな目を輝かせた授業が、英語の授業にも反映されれば、小中学校関係なくきっと楽しい授業になっていくんじゃないかなと思いつつ、想像だけを膨らませてお話を聞かせていただきました。以上です。</p>
吉原教育委員	<p>はい。英語苦手の代表みたいな私ですが、英語に親しむといつても「This is a pen」ぐらいのレベルの世代でありまして、今は非常に学校も色々工夫をされて、もちろん英語の授業で本当に楽しくしている子もおられて、大変羨ましく思っております。先ほどお話があったように、これからGIGAスクールでタブレットを導入いた</p>

	<p>しますので、それを活用した新たな英語の苦手意識をなくすような取組みもしっかり考えていただいて、もうとにかく苦手意識、私も本当に苦手意識があるんですけど、そういう意識をなくして、古澤委員も言ったように、ちょっとでも興味を持ったり好きになったりすることが大事なことかなと思いました。以上でございます。</p>
橋本市長	<p>ちょっと質問なんですけど、この資料の6ページの上のほうに書いてある小学校英語専科教育指導教員ということですが、この専科教育指導教員というのは、英語の専科ということなんですか。</p>
日吉学校教育課参事	<p>はい。こちらにつきましては、英語を専門に取り扱ってる教員です。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。何でそういうことを聞いたかという、幾つか私の体験を申し上げますと、高校時代、鳥栖高校に通っておりましたけど、英語の成績は県内ではそこそこだったんです。それで、自信を持って東京の予備校に行ったら、いきなり一番下に行きまして、都市間格差が物凄いあるんだということ、佐賀県で良くても全く通じないんだということをしみじみ骨身に染みたことがあります。ということが一つ。</p> <p>あともう一つ。数十年前にALTで来たカナダで学校の先生をしているウエイン・ナポイントさんという方がいて、彼は「自分の教授方法が言語の母体が違う学校で通じるか、自分の教授方法が適切かどうかということを試しに日本に来た」という話をしていたんですね。しかし、彼は日本に来てがっかりするような状況に、毎晩飲みを誘わなきゃいけないような状況になってしまったんですけど、彼が言っていたのは「自分の専門の教科を教えることが出来なかった。テープレコーダー代わりに英語の授業に行っているようなものだ。同じ教科書の同じところを読んでくださいって、それしか言われず、同じことを何十回って言わなきゃいけない。おれはテープレコーダー代わりか」ということで物凄いストレスが溜まっていたんですね。要するに、即興性が出来る会話ということのためには、例えば数学とか歴史とかそういったものを英語で教えていく。あるいは、例えば調理実習でもいいですけども調理実習を英語で教える。そういうことがなされていかないと、多分実践力っていうのは身に付かないんだろうなあと思っていて、例えば歴史の先生が「今日は英語でヨーロッパの歴史をしましょう」とかいうことがされていかないと、なかなか英語力は身に付かない。英語の時間だけやっても、どうかなっていう感じがちょっとしております。</p> <p>それで、教育長以下の皆さんにはお知らせしていますが、大分県で「ディリーゴ」という英語教室をなさっている廣津留真理さん</p>

という方がいて、独自の「ひろつるメソッド」という方法で英語を教えているんですけど、その方の娘さん、すみれさんという方は、これはご自身の才能もあるんでしょうけれども、大分県の県立高校からハーバード大学に現役で合格をして、その大学を主席で卒業して、その年にジュリアード音楽院の大学院に入学して、そこでも主席で卒業して、今バイオリニストをやっているということなんです。そこが、ちょっと調べていると、2019年4月に教室に入って英語を始めた年長のお子さんが、翌年の11月には英検準2級に受かっているんですね。一つの項目を5分間に区切って、ぽんぽんと話題を変えていって、興味を逸らさない授業をされているということで、大体小学校2、3年生で、もう大体中学校2年生のレベルの読み書きが平気で出来るぐらいになるということをおっしゃっていて、その教室の子どもたちのそういうところも見ていただくと面白いかなという気がします。

あともう一つ。自分でやる、やりたい子どもたちは、今ネットで「無料1分間英語」というのがあるんです。色々なテーマで1分間に時間を区切って英語で話をしてきて、下に必ず翻訳が出てきまので、それで耳を慣らすっていうことは出来ます。要は発音が聞き取れないといけないということできくと、今はタブレットやスマートフォンを使って無料で勉強出来ますから、そうすると耳は慣れてきますので、そういったものを紹介しながらやっているととっても楽しめるんじゃないかなあという気がします。

だから、例えば中学生ぐらいだと、何か一つのテーマを設けて賛成派と反対派に分かれてディベートするとか、そういう中で話す内容を考えるのも英語で考えるというような訓練をしていくと実践力が身に付くような気がします。要するに、英語のための英語ではなかなか限界がすぐそこにあるような気がしていて、何かを英語でやっていくことによって全体的なその教科のことも理解するし、英語も理解するっていうのに繋がっていくんじゃないかという感じがしております。そんなことあるもんかかって言われるかもしれませんが、自分の身の回りの体験からするとそんな感じを持っております。すみません、また駄弁を弄しました。

ついでに申し上げますと、やはりこの英語をどう取り込むかというのは、先ほどのGIGAスクールの2極分化と同様の内容もはらんでいまして、こういうところに関心を持ってる皆さんとそうでないところの皆さんでは、例えば将来的な選択肢の範囲が随分変わってくるというふうに思います。これだけ国の垣根がなくなってきておりますので、どこの国でどういう仕事に就くかということをお考え

	<p>ときに、そこら辺を乗り越えるスキルの一つとして、それを持っているか、いないかというところでの差が出てくると思います。そこで、この廣津留さんは「世の中には様々な記号があります。言葉や音符も記号で、その記号の読み解き方を教えているんです」とおっしゃっているんですね。あと「この記号のこの部分はどういうルールで構築されてるんだというのを教えて、自分でその道を切り開いていく基礎的なルールを教えているんだ」という言い方をされてました。だから、それぞれのお考えもあるんですが、そういう事例もありますということでご紹介をいたしました。</p>
<p>日吉学校教育課参事</p>	<p>ありがとうございます。様々なご示唆いただきまして、ありがとうございます。今ここまでのご意見を伺いながら、今後どういったことが出来るかなということを考えていく中で、まずは教員の研修を進めていく必要があると思っております。</p> <p>英語教育も、これまでの色々な変遷の中で、コミュニケーション能力を育成するということで、今回「やり取り」ということが重視されているということがございます。それで、まず先生の研修が一つ肝になると思います。教員は、基本的に教えられたような教え方をします。指導法については、常に新しい情報も取り入れながら、そして不易と流行のバランスを取っていくことは大事なのですが、やはりついつい、昔自分たちが習ったようなイメージで教えてしまうところが大きいでございます。それですので、ご覧になられた詰め込み式の面白くない授業については、かつての英語教育の姿であります。それは、文法訳読方式といって、逐語訳、出てきた英語を一つ一つ訳をさせていくようなもので、文法を中心にやっていくというようなものです。それから、テストは減点方式となっております。まずは、そういったものの意識改革が必要であるということです。言語というのは、本当にエラーの繰り返しの中で身に付いていくものであり、そして正確さが身に付いていくものなので、最初は間違いが起こるわけなんですけれども、そこを許容しながら指導していくというスタイルに切替えていくということを皆で共有して、モデルとなるいい授業をたくさん見て、そして協議をして、どこから取り入れていけるかというようなものを自分事として一人一人の先生方に捉えていただいて、本当に楽しい授業にしていくことを進めていく必要があると思います。</p> <p>中学1年生の時に、大きな壁がございます。ベネッセの調査によると、中学2年生で英語が苦手だと感じている生徒の8割が、中学1年生の2学期に挫折を感じているということです。この時にどんなことが起こっているかという、文法としては「3単現のS」が</p>

出てくる時期でございます。「3単現のS」は、ネイティブでも間違ってしまうようなもので、有名なお話で、かつてある大統領がスピーチの中でミスをしてしまったというようなこともあるくらい、習得が難しいとされているところです。そこが1年生の2学期に一つの山として出てきます。ここで、名詞に出てくる「複数形のS」との混乱が生じてきます。そうこうしているうちに、3年間で学習する疑問詞のほとんどが1年生の後半で出てきて、文法的にはかなり負荷のかかるような状況がございます。これを単純にテストだけで身に付けさせようとすると、物凄い嫌気がさすんですね。もちろんそれを体系的に理解していくということも必要なんですけれども、やはりコミュニケーションのツールですので、使いながら身に付けさせていくということ、今の現行指導要領でも文法事項については言語活動の中で身に付けさせていくということが力説されております。文法は文法、言語活動は言語活動で分けての指導はしませんということ。言語活動の中で使わせながら、エラーを起こしてこれは何だったのか振り返りながら、そして少しずつ身に付けさせていく。必ずそこで気づきが起こってきますので、それをしない限りにおいては、それこそ英文が出来上がったところで発語するというような状況になりますので、しゃべりながら作りながらということをしていくためには、つまり即興性ですね、それを身に付けさせるためには、先ほどのGIGAスクールの話ではございませんが、やはりそのエラーをそれぞれの段階の許容範囲としてどこまで受け止め、そして指導出来るかというところが大きなポイントになります。それですので、こちらについては、急ぎで対応する必要があるかなと感じたところでございます。

そして、市長からご紹介がございました「ひろつるメソッド」については、私も視聴させていただきまして、確かに言語習得のポイントが盛り込まれたメソッドだなというふうに思ったところです。まず一つは、第2言語習得の流れに沿っている中身であるということ、それから5分ごとに活動を刻んでいるということ、子どもたちはすぐ飽きますので、それはとてもいい考え方だと思います。それは、英語教育を牽引されている全国でも有名な先生で「活動は5分以内、いっぺんに正しいことを身に付けさせることは無理だから、短時間で何回も繰り返してレベルアップさせていく、それを1時間の授業の中での見通し、そして中長期的な見通しの中で何回も出あわせて、そして少しずつより正確により複雑にということを目指していく」ということをおっしゃっている方がいらっしゃいます。そのように、活動はやっぱり小刻みにやっていく、時には「じっくり

	<p>読ませる、聞かせる」ということも大事ではあるんですけども、基本的にはそのようなやり方で進めていくことは、一つの素晴らしい方法だと思いますので、そういったこともぜひ紹介をして、教員で共有していきたいなと思っていますところです。これは、私の本業でございますので、今後は少しこちらのほうにも力を入れていけたらと思ったところでございます。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。どうぞ。</p>
古賀学校教育課参事	<p>自分は本業ではないんですけども、小学校の現場にいた時に、実際に外国語活動の授業を行ったりしておりました。先ほどから楽しくなければいけないというお話がっております。今回教科になったことにより「読むこと」「書くこと」が入ってきたというところを少し慎重に小学校は扱っていかないと、今の中学1年生での大きな壁が、小学6年生で起きてくるというところも可能性としては十分にあり得るわけなんですよね。これまで「話すこと」「聞くこと」は、ゲームを中心に取り入れながら楽しく学習していくということでしたが、今度「読むこと」となってきますと文字を拾いながら読んでいかなければならない、「書くこと」となりますとABCから書いていかなければならないというところがありますので、どのように対応していくのかということがございます。単純な作業かもしれないかもしれませんが、そこにゲーム感覚を取り入れるとか、そのところの指導がこれから先は大切になっていくと思います。今年度は、学校訪問等でなかなか授業を見ることも出来なかったというところもありますので、そういった視点も持ちながら授業を見ていく必要が出てくると思います。小学校において中学校の前倒しにはならないというところは、非常に大切なところになってきます。そういったところを注視しながら、今後も鳥栖市における外国語活動を見守っていき指導していきたいと考えております。以上です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。これはちょっと余計なことなんですけど、学校の授業で教科書以外を使っては駄目なんではないでしょうか。例えば、「ハリーポッター」を皆で読もうとか、そういうことは出来ないんじゃないでしょうか。</p>
古賀学校教育課参事	<p>教科書を使うことは一つの前提でありますけれども、その補助資料として何を使おうというところは構いません。例えば、この中で別の教材を持ってきて、同じ指導内容を行っていくということであれば可能です。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。何でかという、うちの子が高校生の時に「ハリーポッター」が流行っていて、それを映画で見た後に原本を買って読んでおりました、その後は別の本も読んでいたというこ</p>

	<p>とがありましたので、だからやっぱり興味があることだと自分で読めるんですよね。何かそういうことで英語を導入していくと、結構素直に入っていきそうな気がしますという感想でございます。</p> <p>あとは、ぜひ教育長にお願いしたいのですが、英語の先生のミーティングはぜひ英語でやっていただきたいということです。そうすると、随分先生方のレベルが上がるのではないかなと思ったりしておりますが、いかがでございましょうか。</p>
天野教育長	<p>貴重なご意見だということで、その辺も含めてまた校長ともしっかり話をしていきたいと思えます。今回小学校は教科として入ってきて、来年度からは中学校でも新学習指導要領でやるんですけども、この小学校4年間と中学校3年間の流れの中で、どういった子どもたちを目指すのか「目指す姿」というか「目標」といいますか、そういうものが抜けてたなあとという気が非常にしております、そろそろ教育プランを見直す時期でもありますので、せっかく日吉参事もありますので、具体的な重点項目の中で取り組んでいきたいと思えます。グローバル化や文化ということも含めて、色々と考えていきたいと思っておりますので、その辺は来年度以降に考えていきたいと思っております。よろしくお願ひします。以上です。</p>
橋本市長	<p>もしございましたら一言なりと、よろしいですか。ちょっと時間も過ぎておりますので、一応今日はこれで終了したいと思えます。これらはこれから始まることでもございますので、ぜひ皆さんも関心を持って見ていただいてご意見を賜って、本当により良い環境が出来ていければと思えますので、よろしくお願ひいたします。今日は、ありがとうございました。</p>